

農村体験旅行

—埼玉—

農村の生活を体験してもらおうと埼玉県加須市の4Hクラブ員にまねかれた都会の若者男女50人。6月10日、加須市の武蔵野村に集まった若者たちは、クラブ員の家に2~3人ずつ分散して泊った。江原英一君の家に泊った佐々木陽子さんと坂口澄子さん、二人はいづれも都内の会社に勤めるO.Lである。「今農繁期で忙しい、朝5時30分には起きて仕事をする。夜も12時近くなります。あなた方、大丈夫ですか」と英一君。「ええ、絶対大丈夫です。やります」と二人。翌朝5時30分からキュウリの取り入れ、朝食がすんで田植えと強行日程、はじめのうちは元気のよかった二人だったが、そのうちややグロッキー気味。それでも、新鮮なキュウリと大きなおにぎりを川原で御馳走になったら、元気を取り戻した様子。「つらかったけど、楽しかったワー」『農村体験旅行。で都会の若者は何を感じとっただろうか。

PCB汚染

PCBを追放しよう！／かけがえのない地球を守ろう！
(カネミ油症患者紙野柳蔵さん)

娘が自殺するためにあんだなわが今でもうちの納屋にかかっていますよ。長女が買い物からかえってくると着物を手で払うんです。人の眼がついているというて。ふべつ眼、差別眼ですよ。こうして孤独においやられたんです。絶望と死とは紙一重ですね。

公害企業を追放しよう！／PCBを追放しよう！

東京衛生研究所。今微量分析班はふだん口にする食品のPCBの検出を急いでいる。ここで確認されたものだけでも母乳、市販牛乳、東京沿岸でとれた魚貝類、更には食品包装紙といとまがない。つい最近も、あるメーカーのパンの包装紙から500PPMもの多量のPCBが検出された。今、日本をとりまく空や海、鳥や魚、全てがPCBに汚染されているという。昭和29年に日本ではじめてPCBが生産されて以来、これまでに凡そ57,000トンにも及ぶ。その特性が買われて多くの商品に使用されてきた。都立大学理学部の磯野先生は、

PCBの生産が中止されたけれども、これまで生産されて使用されたPCBが野放しの状態にある。この影響は計り知れない。今、大人である私達は命が2、3年縮まるだけかも知れないが、これから生れてくるだろう次の世代は、確実に影響がある。今や、PCBばかりでなく、物質そのものを考え直す時機にきていると思うPCBが実験に動物をどのように犯していくのか。東京衛生研究所公害衛生第二研究室では、ヒヨコを使って実験が行なわれている。PCBの入った餌を食べたヒヨコは、一カ月もたたないうちに半数以上が死亡。また、発育が極めて遅く、カネミ油症患者に見られるような脱力症状もあるという。

(食品公害シンポジウム 紙野柳蔵さんの発言)

私にはかかわりあいのないことでござんす、と考えた。水も、空気も食品も誰かがつくってくわせてくれると考えた。今、私にかかわりあいのないと思った、これらのものが全部かかわりあっていた。皆さま、他人事であるでしょうか。皮膚をおおう無気味な吹出物。脱力症状。出てくる赤ちゃんの黒い肌。近い将来の予測される人間の姿だという。人間の環境を破壊してきたDDTやBHCそしてPCB。これら有毒物質のたれ流しとおそい規制。このいちちこっこの中で、かけがえのない地球と命が確実にむしばまれている。